



だより



R8.1.13 Vol.34

51日

何の数字だと思いますか？実は3学期に学校に来る日数なんです。始業式で子供たちに「3学期！学校に来る日は何日あると思う？」と四択のクイズにして出してみました。この数字を当てた子供たちはわずかでした。もっと長いと思っていたようです。

一月は行く、二月は逃げる、三月は去るとよく言われますが、私たち教師も3学期はあっという間に終わることを肌で感じています。

「何かに一生懸命取り組んでも51日、だらだら過ごしても51日、時間は平等に流れます。さてみなさんはこの51日をどう過ごしますか？」そう子供たちに投げかけました。

進級に向けて、そして6年生は卒業に向けての大変な学期になります。一日一日が充実したものになるよう、家庭での声掛けもどうぞよろしくお願ひします。

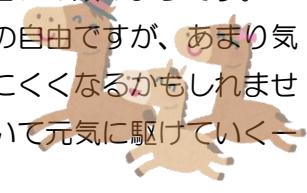
丙午(ひのえうま)

今年は午年！それも丙午の年です。60年に一度やってくる年！ということは、今から60年前、私の一つ上になる歳の方たちが生まれた干支ですね。

その60年前、当時は「丙午に生まれた女は男を不幸にする」そんな迷信がまことしやかに世の中を駆け巡っていました。実際、その年は前年より25%も出生率が減少し、意図的に出産を避ける家庭が多くなったようです。今思うと、そんな馬鹿げた迷信をなぜ？…そう感じるのですが…。

迷信と言えば、大安とか仏滅、友引といった六曜、今も日本の慣習・文化に根付いていますが、仏教等の宗教とは一切関係のない占いの類のようです。

信じる・信じないは個人の自由ですが、あまり気にし過ぎるとかえって動きにくくなるかもしれませんね。自分を信じ、前に向いて元気に駆けていく一年にしたいものです。



四方山話真穴 ver2. 其の三十五(とりあえず)

校報すでに挨拶しているのですが、改めて明けましておめでとうございます。今年も校長室便り、御聴取の程、よろしくお願ひ申し上げます。(笑)

校報で「チャレンジ」そんな話を書きました。その余談ですが…。

だいぶ前に、ある子供が「校長先生ってこれまで何でもチャレンジしてきた感じがしますよね！」そんなことを言ってくれました。でも私は全然そんな子供ではありませんでした。どっちかと言うと臆病で物事に対して『石橋を叩いて渡る』どころか『石橋を叩き過ぎて壊してしまう』そんなこともよくありました。大人になってから(それも35歳を過ぎてからくらいでどうか….)あることがきっかけになり、『とりあえずやってみよう』そう思うことができ始めました。もっと早くにチャレンジする楽しさを知っていれば、違う人生もあったかな。ふとそんなことを思う日もあります。(笑)とりあえずやってみると、「あれ？これはどうしたらいいんだろ？」と次の壁が必ずやってきます。その壁をクリアするとその次の壁が…。それを繰り返す中で自分なりのゴールが見えてきます。そこには満足感や達成感がもちろんありますし、今まで見えていなかった景色が広がる楽しさがあります。

子どもたちに「とりあえずやってみ！」そう声掛けするのは、それをしてこなかった自分への後悔があるからかもしれません。それと同時に、チャレンジするワクワク感を子供たちに感じてもらいたい！そんな思いもあります。2026が始まりました。子供の頃、必ず新年の抱負を書き、一ヶ月後には忘れ去っていました。(笑)昨年は教え子を大事にすることを抱負としました。今年は「子供たちと一緒にとりあえずやってみる！」ことを抱負とします。

切り取り線

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思います。